

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192000107		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター小樽(かすべ)		
所在地	小樽市稲穂5丁目11番24号		
自己評価作成日	平成24年2月29日	評価結果市町村受理日	平成24年4月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JR小樽駅より徒歩10分位の交通の利便性に優れ、近隣には大型スーパーや公園、小学校などの公共施設があり環境に恵まれた中に開設されたグループホームです。管理者、職員は「利用者と一緒に楽しみ、笑顔で日常生活を送れる様」をモットーにケアサービスの向上に取り組んでいます。委員会の数を増やし、環境美化、レクリエーション、献立、リスク、感染対策、ケア委員と、職員一人一人が責任を持ち、利用者の方が安心して暮らせる環境作りを常に目指しています。忙しい中でも、利用者の方の事を真剣に考え、今よりも良いケアが出来る様に努力してくれている職員に恵まれています。定期的に音楽療法や、ボランティアを招き、交流を図っています。春から秋にかけては、外出の機会を多くし、皆様が楽しめる時間を提供しています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0192000107&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年3月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<チームケアへの取り組み>
 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、職員間で話し合い、協力的体制を構築している。また、就業環境の整備に心掛け管理者・職員の信頼関係が深く、入居年数と共に身体機能が低下しつつある利用者のケアサービスのあり方について共有し、チームとしてサービスの向上に取り組んでいる。

<地域との交流・連携の推進>
 近隣住民の施設見学や音楽療法への参加の支援、実習生や腹話術等のボランティアの受け入れ、ホーム主催の夏祭りの開催を地域に案内するなど地元の人々に認知症について理解を得る取り組みや広報に努めている。また、コミュニティーセンターでの社交ダンスの見学に出かけ地域の人達との交流に努めている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)				項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を共有し、我が家の様に、気楽に楽しく過ごせる様、会話やケアを行っている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、職員間で共有し、その実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	冬期間は難しいが、暖かい時は隣のスーパーを利用し、挨拶や交流を図っている。近くのコミュニティーセンターで行なわれている社交ダンスの見学も行なった事がある。	近隣住民の施設見学や音楽療法への参加の支援、実習生や腹話術等のボランティアの受け入れ、ホーム主催の夏祭りの開催を地域に案内するなど地元の人々に認知症について理解を得る取り組みや広報に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当ホームには、介護福祉士、介護支援専門員、認知症ケア専門士がおり随時介護に対する相談を受けている事を地区民生委員を通じて発信している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では行事、ホームの取り組み、事故やヒヤリハットの報告を行っている。今後、ホームに必要な部分等を相談し、勉強会に繋げていける様にオーナー、地域包括支援センター、民生委員の方たちに意見や協力を頂いている。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、家族会での内容や行事の報告・結果について具体的に話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に、地域包括支援センターの担当者を招き、相談や報告を行い、助言を頂いている。	包括支援センター職員とは、日常業務を通じて連携を深めるように努め、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は玄関や居室に鍵をかける弊害を理解しており、徘徊が多い方には常に付き添い、鍵を掛けないケアに取り組んでいる。身体拘束は行っていない。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を身体拘束廃止や高齢者虐待防止の法人研修や内部研修で正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修は、何度も繰り返し行なっている。カンファレンスを通じて細かくスタッフに理解してもらい、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、ホーム会議で簡単な説明を行なったが全員周知には至っていないため勉強会を行うべく地域包括支援センターに講師の打診をしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い理解、納得を図っているが、後に不安や疑問点が出てきた場合はいつでも質問して頂けるよう説明し対応している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員に気軽に意見、要望が伝えられる様に、来訪時の会話を大切にしており、出来る限り利用者、家族の意見を取り入れる様にしている。苦情、意見箱を設置している。	法人独自のアンケートを実施し、苦情や意見を言い表せる機会を設けている。また、苦情等の意見箱の設置や公的機関への申し出先のポスターを掲示し、啓発に努めている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議、カンファレンス、日常の話し合いの中で意見を取り入れて反映させている。	職員の離職率は低く、就業環境の整備に心掛け管理者・職員の信頼関係が深く、入居年数と共に身体機能が低下しつつある利用者のケアサービスのあり方について共有し、チームとしてサービスの向上に取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時給者には半年毎にキャリアアップの機会が与えられており、向上心が持てている。希望があれば、デイサービスや在宅、支店等、様々な分野での仕事が行ないやすい環境が整っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケアの仕方を把握し、カンファレンスを通じ色々な視点から、利用者にとって良いケアを話し合っていく。その中で、様々な方法のケアを学んでいく。職員は支店での基礎研修を終了している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、リーダー研修では、他のホームとの情報交換を行い、サービスの向上を目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話をする機会を多く持ち、不安や要望に耳を傾けている。食事は、残し方を見て声掛けを行い、食べたくない物は別の物に差し替え、本人の苦痛が少しでも少なくなる様に対応している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成時、ご家族の要望、不安に思う事を聞いている。来訪時や電話等を使いご家族の意見を聞き、取り入れながら信頼関係を築くようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人に必要な事を一番に考え、サービス提供を行っていく。ご家族に経過を報告しケアの向上に繋げる様に取り組んでいる。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	冗談を交えての会話がが多く、利用者の笑顔が見られている。お手伝いという形で、ご本人の出来る事を行なってもらい、職員と共に生活する環境作りを行なっている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族から色々な意見を伺い、検討しながらご本人にとって一番良いと思われるケアを見つけていく。ご本人の気持ちを一番に考え、ご家族と居る時間の大切さを忘れずに対応していく。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	冬期間の外出は難しいが、夏は市場や、お祭り等外出の機会を設け、馴染みの関係を大切にしている。ご家族や親戚、友人の来訪を心から歓迎している。	職員と一緒に毎日食材や日用品の買い出しに出かけたり、ファミリーレストランでの外食や花見等普段行けない場所への支援や馴染みの場所や思い出深い場所への訪問等に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を考え席替えを行い、お互いが話しやすい環境作りを行なっている。スタッフも共に、みんなで楽しく過ごせる時間を提供できる様に心掛けている。レクリエーションを通じてコミュニケーションをはかっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や、他の施設に移り退去された場合は折をみてお見舞いや面会を行なっている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、ご本人の意向に近づける様に会話を大切にしながら希望を伺っている。	センター方式を活用して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員がアセスメントを利用しながら会話をを行い、サービスに活かしている。馴染みの暮らし方を大切に、女性は特に、家事をして頂きながら過ごしてもらう事が多い。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや、記録、管理日誌の確認、カンファレンスでの細かい話し合いを通して、ご本人が過ごしやすい環境を整えている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを通して、課題やケアのあり方について話し合いを行っている。日々の変化は、随時職員と情報交換を行いながら、介護計画に繋げている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、カンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。また、日々の変化や家族等の要望について職員間で共有している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理日誌、介護記録、申し送りでその時の状況を把握し情報を共有しながら改善に努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に最高のサービスが提供出来る様に、その時々ニーズに対応し、職員同士で話し合い柔軟な対応をしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、地域包括支援センター職員、音楽療法士、腹話術ボランティア、救急救命士、警察など連携をとっている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医の往診が週2回～月2回程度あり、都度 医師と連携を取り、ご家族にも報告している。不安要素の改善のため、医師とご家族が直接話をする機会を設ける事もある。	往診や協力医療機関の連携で適切な医療を受けられるように支援している。また、受診は本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間対応の訪問看護ステーションと医療連携を結んでおり、週2回の定期訪問で健康チェック、体調変化の報告、ケアのアドバイスを受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診、通院時には詳しい状態を医師に伝えており、入退院の相談も行なっている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化を想定し、早い時期からご家族の希望を聞き、提携医の協力を得ておく。ご家族と医師で直接話し合いを行なって頂き、少しでも不安の解消に繋げている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から事業所ができることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救命士を招いて、応急処置や救命処置についての講義を受けている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、消防士から指導、助言を受けている。地域との協力体制は高齢者世帯の為難しい部分があるが、災害対策の一つとして交流を大切にしていきたい。	消防署の協力を得て、年2回の火災避難訓練の実施や消火訓練を実施している。また、スプリンクラーや火災通報装置、火災報知機の定期点検を実施している。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「虐待」についての勉強会を何度も行い、職員で意識付けを行っている。人生の先輩である事を忘れない対応を心掛けている。	身体拘束廃止や高齢者虐待について内部研修を実施し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物同行で食材を選んで頂いたり、本人の行動を観察し、何を望まれているかを確認、見極める様に対応している。認知能力に合わせ、自己決定に繋がる様に支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り利用者それぞれのペースに合わせ過ぎて頂けるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケア、入浴時、外出時等、整容を心掛けている。定期的に理美容室にも出向いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日、祝日、行事に合わせて特別な献立を用意し、ご本人の嫌いな物は別メニューで対応している。食事作り、盛り付け、後片付けも手伝って頂いている。	一人ひとりの力を活かしながら職員と一緒に、日々の食材や日用品等の買い出し等を行い、日々の食材には安全性や栄養バランスに配慮した支援に努めている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録し、必要に応じて摂取量の調整を行なっている。職員で献立作りを行い、委員会でバランスを考えメニューの決定を行なっている。嚥下状態に合わせて、お粥、刻み食、ミキサー食、トロミの調整等検討し、提供している。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは欠かさず行っており、自立していない方には、見守り、介助を行なっている。夜間は義歯を外し洗浄剤で消毒している。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行なっている。自立の方も声掛けを行ない失禁を防いでいる。皮膚の状態を考え、日中は布の下着を使用し、夜間はリハビリパンツ等の対応を行なっている。	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレで排泄できるように自立にむけた支援を行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のサイクルを確認し、水分量に気をつけ乳製品や病院から処方されている下剤を使用しながら便秘の解消に繋げている。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	冬至の週にゆずを浮かべ、楽しんで頂いている。入浴の好きな方には、入浴剤をプレゼントしたり、入浴希望があった時は出来る限り、本人の希望に添える様に対応している。	拒否の強い利用者にも柔軟な支援をし、入浴が楽しみなものとなるように入浴剤等を使用している。また、一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に合わせて週2～3回を目安に支援している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングで過ごされる時等、眠そうな表情が見られた時は、居室で休むように声掛けを行ない、夜間の徘徊が多い方は様子を見ながら安心できる様な声掛けを繰り返し、ゆっくり休める時間を提供している。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表を使い、一人一人のスタッフが確認出来る様にしている。薬の変更があった時は、管理日誌、申し送りを行い、全員で変化に気付く様に対応している。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を把握し、行事や日々のレクリエーションにも取り入れている。家事も行なって頂き、生活に変化が出来る様に取り組んでいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期間は難しいが、出来る限り外出レクを計画し、懐かしい場所、馴染みのある場所に行ける様に取り組んでいる。ご家族にも協力を頂き、外食や、ご自宅に帰られる事もあり、利用者は喜ばれている。	一人ひとりのその日の希望にそって、散歩や日用品の買物、蕎麦屋での外食や花見等普段行けない場所や馴染みの場所への訪問等支援に努めている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行なっているが、外出の際に、本人の希望があれば、お任せする事も可能。その際はトラブルがない様に完全見守り、確認の中で行なう。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時や、不安な気持ちが強い時は、ご家族と電話連絡を取る等の支援を行なっている。ご友人から絵葉書が届く方はファイルに管理し、返信の声掛けを行なっている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下の壁に季節感のある物を貼り、楽しんで頂いている。音楽を聴いたり、テレビを見たり、居心地良く過ごせる様に工夫している。	共用の空間には、行事参加の写真の掲示や季節毎の飾りつけ等が行われ、本人が居心地良く過ごせるよう工夫をしている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の表情を見ながら、周りの方との会話や、1人の空間を楽しんで頂いている。動物や景色、料理の雑誌等を見て頂き、過ごしやすい環境を提供している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を大切にしている。危険と判断した物は、ご家族の協力を得て、お持ち帰りや処分して頂いている。	安全性を考慮しながら居室には、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は段差が無く、過ごしやすい環境が整っている。テーブルや椅子の脚に躓かない様に動作がある時は見守りを行っている。声掛けをしながら本人が行なえる事は行なっている。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	冬期間は、地域との交流が少ない	少しでも地域との交流の機会を多くする	会議の中で、交流に繋がる話合いを行っていく。運営推進、家族会でも地域との交流について話をしていく。	12ヶ月
2	14	同業者との交流が少ない	同業者との交流を図る	グループホーム連絡協議会の勉強会や、研修に積極的に参加していく。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192000107		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター小樽(はっかく)		
所在地	小樽市稲穂5丁目11番24号		
自己評価作成日	平成24年2月29日	評価結果市町村受理日	平成24年4月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JR小樽駅より徒歩10分位の交通の利便性に優れ、近隣には大型スーパーや公園、小学校などの公共施設があり環境に恵まれた中に開設されたグループホームです。管理者、職員は「利用者と一緒に楽しみ、笑顔で日常生活を送れるように」をモットーにケアサービスの質の向上に取り組んでいます。又、レクリエーションや環境美化、献立、感染予防などの委員会を立ち上げ全ての職員が参加して創意工夫したり定期的に段階に応じた職員の研修を実施しています。利用者の思いや意向を尊重して、ファミリーレストランでの外食や買い物、懐かしい場所を訪れる等、外出の機会を持っています。定期的に音楽療法やボランティアを招き交流を図っています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0192000107&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年3月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えるサービスとして、グループホーム独自の理念を作り、職員間で共有している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の音楽療法士、腹話術のボランティア、協会の聖歌隊を招き交流を深めている。ほぼ毎日となりのスーパーに買い物にも行き顔なじみになっている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当ホームにはケアマネジャー、介護福祉士、認知症ケア専門士等があり介護に関する相談を受け付けている事を運営推進委員会の場などで発信している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では毎回ホームでの取り組み、行事、事故報告をしている。委員に方から他の事業所などの事例、取り組み等、参考意見を頂き良い所を取り入れていく等サービスの向上に活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者との連携の重要性については十分理解して、相談、援助を求める機会を心掛けている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が玄関や居室に鍵を掛ける弊害を理解しており、鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待、身体拘束の内部研修を行い理解を深めてもらう様働きかけている。見過ごしがたいようスタッフとの面談を通して話しやすい雰囲気を中心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や一部職員は学ぶ機会を持っているが全員周知には至ってない。勉強会で取り入れていく予定であり、地域包括支援センター職員に勉強会講師の打診はしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い理解、納得を図っているが、後に不安や疑問点が出てきた場合はいつでも質問して頂けるよう説明し対応している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会で意見を頂くほか、ご意見、苦情のBOXを設置し積極的に要望を取り入れ運営に反映するようにしている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全員対象とした「採用時研修」に参加してもらい運営に関して学ぶ機会を作り、その場での意見交換、終了してからのレポート提出の内容を見て参考になっている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時給者には半年毎にキャリアアップの機会が与えられ、やりがい、向上心を持っている。資格手当ての制度もあり介護福祉士の受験者も年々増加し向上心が見られる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修会、講習の案内をしており働きながらも勉強できるようシフト調整する等、配慮している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は行ってないが管理者が独自で他のグループホームと交流する機会を持っている。お互いに協力し良い所は積極的に取り入れ質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの強化に努め不安の軽減を図り希望に添えるよう本人から話を聞きだす。いつもと違う様子が見られたら個別でゆっくり話す時間を設けて本人の安心の確保に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時やアセスメントの時から困っている事やホームへの要望を聞き出し、ご本人、家族の希望に添えるよう多くの話し合いの機会を持つように努力している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの強化に努め必要としている支援を見極め対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本的な姿勢である事を職員は理解している。尊厳を守り、尊敬の念を持って接する、出来る所を生かすよう取り組んでいる。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時ホームでの様子を必ず伝えている。又、外出、外泊、面会の時間を多く持って貰える様働きかけている。遠方の家族には電話、FAX等でご本人の様子をお知らせしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時から入居後に渡り、親しみ使い慣れた家具や家族の写真を持ってきて頂き会話の中にその話題を取り入れていく。外出レクでは馴染みの場所に出向いたりしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方と近い席にして会話を多く持てるようにしている。自室で過ごす事が多い方は孤立しないように気を配りまめに声かけを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の施設に移り退去された場合は時々面会に行く。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の個々の要望に応じた対応を心掛けている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントである程度の情報は得るようにしており、生活歴の細かい点は会話を通して把握するようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者の心身状態を記録、日誌に記入し交代する職員同士で情報を申し送る等、気づきを共有している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度ケアカンファレンスを行い、職員の意見交換を行う。本人、家族、様々な機関の意見を元に希望に添える介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その方がより解る様な記録を実践している。都度モニタリング、再アセスメントを行い見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助の他にも買い物や行きつけの理美容室への付き添いに対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、地域包括支援センター職員、音楽療法士、腹話術/ボランティア、救急救命士、警察などと連携を取っている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医の往診が2週に1回、又は1ヶ月に1度来ており都度、医師と看護師との連携を取っている。急変時は電話で指示を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師は確保されていないが提携病院の看護師とは密に連絡を取り合っており健康管理の支援に努めている。又、昨年より訪問看護ステーションと医療連携を結んでおり週に2回定期訪問にて健康管理をして頂いている。24時間体制での相談にも対応して頂いている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連絡を取り情報交換を密に行い早期退院が出来るように取り組んでいる。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化を想定し、早い時期からご家族の希望を聞き提携医の協力を得ておく。ターミナルケアに向けて話し合い全員一致の取り組みを行っている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応は全ての職員が把握している。避難訓練時に救命士から救急救命法の指導を頂いている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	最低年2回は避難訓練を行っている。地域の方たちへ協力を呼びかけているが高齢者世帯が多く難しい。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令口調や威圧的な態度にならない様、職員の教育を徹底すると共に「虐待、身体拘束」の勉強会を行っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の入居者の認知能力に合わせた説明を行い、納得した上で自己決定に繋がるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の尊厳を守り一人ひとりのペースに合わせ過ぎてもらえないよう支援している。外出、入浴は出来る限り希望に添い、無理な促しはしない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の整容の声かけ、介助、外出時のエレガンスケアも必ず行っている。定期的に理美容室にも出向いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを聞き毎月15日に「ごちそうの日」として献立に盛り込んでいる。盛り付けや簡単な刻み等をしてもらい一緒に食事作りを楽しんでいる。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考えたメニュー作りをしている他、固形物を摂取出来なくなった方にはペースト状にして提供している。水分摂取の重要性を職員は周知しており好みに合わせた水分の提供をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が声かけを行い、うがい、歯磨きをして口腔内の清潔を保つよう取り組んでいる。又、夜間は義歯を外し消毒している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し一人ひとりの排泄パターンを把握し間隔を見て促しを行っている。訴えない方も時間を見て便器に座って頂き排泄できるよう取り組んでいる。その取り組みで1名紙パンツの必要がなくなった。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便確認を行い、水分や食事をチェックし足りない部分を補う。毎朝ヨーグルト、牛乳を摂って頂く、定期的に乳飲料なども取り入れ、スムーズな排便があるよう努めている。		
45	17	入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間やお湯の温度など、極力入居者の希望に添って支援している。季節を感じさせる入浴剤も時折使用し楽しんで頂いている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの今までの生活習慣を尊重し昼寝も含め好きな時間に休んで頂いている。昼夜逆転にならないような配慮も行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時、職員同士で確認を行ってから誤薬のないように服用して頂いている。目的、副作用、用法、用量についてはその都度職員に伝え周知している。服薬ファイルというものが有り活用している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理や盛り付け等の参加、縫い物、植木の手入れ等、好きな事、得意な事をして頂き張りのある日々を過ごして頂いている。月1度の音楽療法、季節を感じる行事を取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	厳冬期を除き出来る限り隣のスーパーへの買い物に誘い出すようにしている。夏季は外出レクを取り入れ希望の場所に行ける様支援している。全員ではないがお墓参り、法事、旅行等でご家族との時間を持たれている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所の規則でお金の所持はお断りさせて頂いているが、どうしても持っていたい方が3名同意を交わした上で自由に使って頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望があった時は、職員がダイヤルを回しお手伝いしている。手紙等はご家族に確認を行ってから渡している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔にしておく事を心掛け、入居者に不快感を持たせないよう配慮している。エアコン、加湿空気清浄機を備え付け気温や湿度調整に気をつけている。又、花を活けたり壁に季節を感じて頂けるような飾りつけをしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの片隅や廊下の所々に椅子やテーブルを置き、好きな場所で寛いだり歓談できるスペースを設けている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者に馴染みのある家具や物を持ってきて頂けるよう入居時～入居後もお願いしている。カレンダーは好みの物を選んでもらい表札は個々で工夫している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は段差がなく、手摺りも各所に取り付けている為、車椅子、歩行器、杖歩行の方も安全に過ごして頂ける工夫がされている。各トイレ前に印があり解りやすくなっている。		

目標達成計画

事業所名 ニチイケアセンター小樽 (はっかく)

作成日: 平成24年3月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	9	契約時重要事項説明書に記載されている「損害賠償」の中に ご入居者の所有物品を通常の使用方法により使用したにも関わらず、当該物品が耐用年数の超過その他の理由により破損した場合 とあるが、度重なる失禁汚染による洗濯で下着が痛んでしまうという説明がなく苦情となってしまった。	起こるであろうあらゆる苦情やリスクに備え、事前に説明し同意を頂いておく。信頼関係を築いていく。	失禁の汚染により頻回に洗濯、漂白する事により衣類(特に下着)が通常より痛んでしまう事があると契約時に前もって説明し了解を頂くようにしていく。来訪時などに多く話す機会を持ち日頃から信頼関係の構築に努めて行く。	12ヶ月
2	14	昨年行われたグループホーム相互研修では同業者との交流を持ち質の向上には役立ったが時間が短い等の意見が多く、スタッフのシフト調整も厳しかった為今年度の参加を断念した。	研修に出向けるよう柔軟なシフト組みがなされ、かつ人員に余裕が持てる。	適正な人員配置がなされ研修に出向いていけるよう柔軟なシフトが組めるよう新人スタッフの一人立ちに向けた教育に力を注いでいく。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。